

二十三年九月頃、この修理工場を後にしてライチハに戻り、そこから帰国の途につく。約一カ月ぐらいナホトカに滞留して軽作業に従事し、十一月に舞鶴に復員した。

願れば、酷寒の地で重労働と飢餓に耐えながらも命だけは長らえてきた経験は、荒廃した内地に還ってきてから社業を復興させるのにどれだけ気力を与えてくれたか知れない。

抑留記

大阪府 岡崎 博好

時あたかもアテネ五輪でせわしい日々、日の丸を背にした選手に声援を送りながら、ふと脳裏をかすめる思い、それは国家とは、国民とは何かというところでございます。加えて八月十五日の終戦記念日のいろいろな新聞ニュース。

昨年五月、劇団四季の「異国の丘」のミュージカルを観劇しましたが、浅利慶太の演出もさりながら、出演者の熱演に、当時の悲哀をしのびて涙を禁じ得ませんでした。「私たちには語り継がねばならない歴史がある…」というテーマ。

しかしながら六十年の風雪は、私達自身が日露戦争の実感がないのと同じように、今、これからの日本人には戦争という恐怖も悲しみも、理不尽さも理解することはできないのかも。

平成十六年八月十七日

追記

一、伐採のノルマ満たさず 寒夜果て

息絶えなむと凍土に臥せり

一、ハバロスク ララ アムールとロずさみ

虜囚の苦役忘れしがごと

一、バイカルに堪えたる漢の蘇武のごと

雁の渡るに涙せし寒夜

一、マンドリン構えしソ兵 羊追ふ

ごとくに叫び ビストリ ダワイ

一、シベリアの飢えと酷寒忘れしか

ハミングするはアムール小唄

一、囚はれて苦役に泣きしかの国へ

誘ふパンフ シベリア紀行

抑留記

熊本県 霍田 功

私は、大正十（一九二二）年二月十八日、現在地にて長男として出生。昭和八（一九三三）年、旧東砥用村立豊富小学校卒業。昭和十一年三月三十一日、砥用村立高等小学校卒業。二年間。卒業後は父が会社員でしたので、農家の仕事をせねばならなかった。家族が多く、父母、弟が三人、妹が三人で大家族でした。次男は昭和十七年一月四日、フィリピン沖で戦死でした。私は兵役で昭和十七年一月十日、熊本西部二十一部隊野砲隊に入隊しました。野砲隊で三カ月教育されました。

昭和十七年四月一日、門司より釜山經由で満州国境守備隊五地区七〇〇部隊に入隊。山口隊はハイラルで、四月というのにまだ雪が降っていました。隊にはノモンハン戦に行かれた人が数人おら